

知的財産事例

有限会社田村工機

町工場がアウトドア用品開発で新境地を開拓 職人の技と知財の力で、メイドインジャパンを世界に発信

事業内容

1973年創業 2002年設立
アウトドア調理器具「L. T. Cooker」
沸かせる缶クーラー「Boilith」
蓋付きボトル「Pot」
精密部品加工（非鉄金属・少量生産対応）

知的財産権と内容

特許第7398628号	熱伝導性を高めた調理器
商標第6680146号	W. R. Cooker
商標第6680147号	L. T. Cooker
意匠第1753822号	五徳

(2025年9月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



受託加工メインの会社が アウトドア用品の開発に挑戦

当社は1973年に栃木県真岡市で創業した、精密部品の切削加工会社だ。旋盤加工を得意とし、熟練した職人の技術力を武器に、超精密加工品などのあらゆる切削加工を手掛けてきた。以前は特定の発注元からの少量多品種な依頼を柔軟に対応してきたが、近年は自社ブランド事業にも乗り出し、軽量かつ高効率のアウトドア調理器『L. T. Cooker』『W. R. Cooker』をはじめ、沸かせる缶クーラー『Boilith』などを展開。現在は、受託加工を本業としつつ、消費者向けの商品の製造・販売の二本柱で経営基盤を築き、工場併設カフェの運営など地域に開かれた活動も展開している。

試行錯誤の末に予想外の反響が

自社の技術力で新しい事業展開ができないか模索していた戸頃専務が、コロナ禍で受注が激減した際、自身の趣味の冬山登山からヒントを得て、アウトドア商品の研究を始めたことが自社ブランド立ち上げのきっかけ。切削加工技術を駆使して試行錯誤した結果、2022年にのちのブランド代表作となる『L. T. Cooker』を開発。同商品は、高い熱効率ですぐにお湯を沸かせる実用性と軽量性が評価され、予想以上の売れ行きを見せた。戸頃専務自身がECサイトの制作やSNSでの発信など手探りで商品のPRを行った。「正直、最初は売れると

思っていなかった」と戸頃専務は当時を振り返る。知人からSNSでL. T. Cookerが注目されていると聞き、オンラインで販売をスタートした初期生産分が数分で完売したことに驚きを隠せなかったという。

この商品は守るべきと決意し知財取得へ

このL. T. Cookerの成功を受けて、苦勞の末生み出した自社商品を「守る」という意識が高まったのと同時に、愛用者から「真似されないように守ってほしい」という声があったことから、知財取得に向けての取り組みを始めた。知財取得は初めてであったが、インターネットで工学分野に詳しい近隣の弁理士を探して依頼に至った。最初の特許取得で市場調査や既存製品との差別性検証、出願資料の作成といった一連のプロセスを全てお任せできる関係性が構築できた。また、弁理士からの勧めもあり、真岡市の産業財産権取得事業費補助金を活用し、費用負担を軽減することもできたという。特許を取得したことで、後に国内で発生した模倣品被害についても、相手方に対し在庫処分と再製造をしないという約束を取り付け、自社商品を無事に『守る』ことができた。こうして知財の保護のもとブランディングしていったL. T. Cookerは、2024年には関東地方発明表彰の発明奨励賞、栃木県発明展覧会の発明協会会長奨励賞をW受賞し、当社の商品と技術が様々なメディアで取り上げられるようになった。今では自

社商品の評判を見るのが、社員のモチベーションにもなっているという。

知財取得における苦悩



しかし、初めからすべてが順調に進んだわけではなく、最初の特許出願では、拒絶通知を受けたこともある。初めての経験にショックを受けたものの、弁理士の「大丈夫」という心強い言葉を支えに、一緒に特許庁へ直接説明に赴いた。その結果、特許庁の担当者が山好きでL.T.Cookerを認知しているという偶然も重なり、商品のオリジナル性や優れた点をスムーズに理解してもらうことができ、その後はトントン拍子で特許取得に至った。一方、中国での特許は、販売後の出願となったことから、特許の要件の一つである新規性を欠いているとして、取得することができなかった。また、別商品の特許取得時も、試作品のテストの様子を発売前にYouTubeで公開してしまったことが原因で取得に至らなかったことがある



L.T.Cookerは高い実用性と軽量性だけでなく、美しいデザインも人気の理由。

など、失敗も経験してきた。この経験を踏まえ、新商品の研究・開発段階からしっかりした準備が必要ということを知り、現在当社では社内の情報管理とプロセスの徹底を強化するに至っている。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「苦勞して作り出したモノ同士を闘わせる必要はない」と語る戸頃専務は、日本の職人文化に誇りを持っている。さらに「手に職」という文化を再燃させたい想いを、積極的に自らSNSで発信もしている。実際に、戸頃専務のSNSを見た若者が入社し、職人への道に励んでいるという。自社の高い技術力を守るために知財の力は欠かせないと考え、「メイドインジャパンを世界に轟かせる、日本のプロダクトを作っていきたい」と併せて語った。すでに海外展開に向けて欧州・北米での知財取得に取り組んでおり、将来的には現地に生産拠点を設けることなども計画している。



数多くの試行錯誤を重ねて「より早く沸かせる」という独自性を生み出した。



知的財産活用のポイント

日常の至る所に 知財のきっかけが眠っている

知財の取得は、本業である当社の金属加工製品にも信頼性を付与し、販路拡大にも大きく貢献した。展示会やメディアでは自社技術の優位性をアピールできるようになり、取引先との価格交渉も円滑になった。こうした自社商品を生み出したのは日頃

から感じていた「困った」がきっかけだったと戸頃専務は語る。些細な不便も重要なアイデアの一つとして温め、多くのトライアンドエラーを積み重ねることで、花開く時が来る。地道でありながらも行動に移すことで、掴めるチャンスを増やせることを体現したのが当社だ。

COMPANY DATA

取材：2025年9月

企業名：有限会社田村工機 所在地：栃木県真岡市石島723 電話番号：028-574-057

URL：<https://tmr.co.jp/> (TMR industries HP：<https://tmr.official.ec/>) 創業：1973年 資本金：300万円 従業員：10名

